

令和7年2月13日

“日本の活字作品の翻訳～グローバル展開”
翻訳コンクール授賞式・記念シンポジウム（「BUNGAKU DAYS 2025」）における
特別講演者等の決定（2月22日（土）開催）

文化庁は、日本の文芸作品を海外に発信していくために重要となる優れた翻訳家を発掘・育成する登竜門として、翻訳者育成事業（翻訳コンクール）を実施しております。この度、2月22日（土）開催の翻訳コンクール授賞式・関連シンポジウム（BUNGAKU DAYS2025）における、基調講演者などが決定しましたのでお知らせいたします。

また、会場については、国立京都国際会館（京都市）を本会場に予定していますが、東京開催も期待する声を受け、サテライト会場として出版クラブビル（神保町）にも会場を設けることとしました。いずれも先着順・入場料無料ですので、早めの申し込みをお勧めします。

【記念シンポジウム ～BUNGAKU DAYS 2025～】

文化庁は、日本の文学作品の優れた翻訳家を発掘・育成することを目的として、JLPP 翻訳コンクールを実施しています。今般、2月22日に今年度の同コンクールの受賞者を決定し、授賞式を開催しますが、併せて記念シンポジウム「BUNGAKU DAYS 2025」を開催します（国立国際会館（於：京都市））。

本イベントでは、特別講演として、又吉直樹氏（お笑い芸人・作家）、チャド・マレーン氏（お笑い芸人・映像字幕翻訳家）が登壇します。続く各セッションでは、井戸川射子氏（作家）のほか、コンクールの審査員を務めた日本文学翻訳者や出版関係者が登壇し、日本の文学作品の翻訳、翻訳家育成に係るテーマについてセッションを行います。また、我が国の活字作品は世界への訴求力が高く、展開を推進するだけの魅力・価値の高いものと考えられることから、最後には「特別セッション」として、そうしたポテンシャルや展開に向けての取組の重要性などについて日本の文学作品のグローバルなポテンシャルに着目している今村翔吾氏（作家）からビデオメッセージをキックオフに、海外展開の最前線で活躍する新井宏氏（文藝春秋ライツビジネス局長）、三枝亮介氏（株式会社 CTB 代表取締役）、チャド・マレーン氏が鼎談セッションを行う予定です。日本文学や活字作品、翻訳にご興味のある方はもちろん、日本文化のグローバルな展開の可能性、ビジネスの可能性等にご関心の方も、是非この機会にご参加ください。

■開催概要

タイトル	BUNGAKU DAYS 2025
テーマ	我が国活字作品のグローバルなポテンシャル ～日本の文学作品の優れた翻訳家の発掘・育成～
日時	令和7年2月22日（土） 12:00 開場/13:00 開演/17:00 頃終了予定
場所	【京都】国立京都国際会館（京都府京都市左京区岩倉大鷲町422） 【東京】出版クラブビル4階403、404会議室（東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル） ※東京会場は、サテライト会場として同時中継で実施（登壇者の一部は東京から参加の可能性）。
参加費	無料

申込方法	WEB サイト (https://www.jlpp.go.jp/bungakudays2025_s/) より、Google フォームにて参加申込受付 ※受付期間：～2月21日(金) ※京都 250 名、東京 100 名、先着順で定員になり次第受付を終了します。		
内容	13:00-13:15	【第1部：第9回翻訳コンクール授賞式】	
		概要	現代文学部門は、井戸川射子著「マイホーム」と、岸本佐知子著「カブキ」「七月の私」「父 セリフ三選」を、古典文学部門は、小林一茶の俳文3点を課題作品として応募作品を受け付け、厳正な審査を経て、今年1月に各部門・各言語の受賞者を発表しました。昨年に引き続き今年も受賞者、審査委員が来日し、対面による授賞式を開催いたします。
	13:25-16:25	【第2部：翻訳コンクール記念シンポジウム】	
	13:25-13:40	オープニング基調講演 「文学・お笑い・翻訳の交差点」 お笑い芸人/作家 又吉直樹氏 お笑い芸人/映像字幕翻訳家 チャド・マレーン氏	
	セッション1 13:50-14:30	『翻訳と創作-詩と小説、及び「二人称」の翻訳-』 ～翻訳対象の違い、言語の違いの間での最適な訳作り～	
	登壇者	井戸川射子（作家） Polly Barton（日本文学翻訳家、エッセイスト） モデレーター：由尾 瞳（早稲田大学教授、文芸翻訳家）	
		概要	詩と小説、二つの領域で活動する井戸川射子氏と、翻訳者、エッセイストとして活動する Polly Barton 氏。二人が領域を超えた創作の魅力について語ります。井戸川氏の芥川賞受賞作「この世の喜びよ」は、主語を「わたし」でも「彼女」でもなく、「あなた」（二人称）とする特徴的な文体。この作品はどのように生まれたのか。翻訳するとしたらどうするか。 さらに、実験的な創作活動に挑み続ける井戸川氏には今後の挑戦について、Barton 氏には翻訳者から見た日本の現代文学の魅力について語っていただきます。
	セッション2 14:35-15:15	『海外における日本文学の翻訳事情と新人翻訳家育成支援のあり方』 ～日本文学翻訳の海外での見方、これに応える翻訳家とは～	
	登壇者	Eduard Klopfenstein（日本文学翻訳家、チューリッ大学日文学名誉教授） Polly Barton（日本文学翻訳家） Alexa Frank（Associate Editor, HarperVia） 森山 恵（詩人、翻訳家）	
		概要	受賞者の翻訳作品を、翻訳者と編集者の視点から講評します。ドイツ語翻訳の審査委員の Eduard Klopfenstein 氏、英語翻訳の審査委員 Barton 氏が、翻訳表現の工夫や原作の魅力をどのように生かしたかを解説します。また、翻訳出版を手がけてきた Alexa Frank 氏からは、編集者としての期待を込めて、翻訳から見える受賞者の実力を説明します。さらに、英語圏・ドイツ語圏での日本文学の翻訳出版の最新状況を紹介し、求められる翻訳者像について議論。翻訳者は編集者とのネットワークをどう構築すべきかを語ります。翻訳者を目指す方に必見のセッションです。

		セッション 3 15:25-16:05	『古典の翻訳 ―受賞作品にみる古典翻訳の可能性』 ～文学作品としての日本の古典の魅力や、その優れた翻訳に向けて～
		登壇者	Janine Beichman （日本文学研究者、翻訳家、大東文化大学名誉教授） Peter MacMillan （翻訳家、詩人） Meredith McKinney （日本文学翻訳家） 森山 恵 （詩人、翻訳家）
		概要	審査委員をつとめた Janine Beichman 氏、Peter MacMillan 氏、森山恵氏、日本文学翻訳者の Meredith McKinney 氏が、受賞者の翻訳作品の表現力や工夫を解説します。どのような点が評価されたのか、優れた古典翻訳とは何か。さらに、長い歴史の中で多様な形式と積み重ねを持つ日本の古典を翻訳する際の難しさや、求められる技術について議論します。今、この時代に古典はどのような魅力を持ち、それを翻訳でどう届けるのか。古典の言葉が持つ輝きと、翻訳を通じてそれを世界の人々と共有していく可能性を探ります。
		特別セッション 16:10-16:50	『世界が求める日本の物語-活字コンテンツのグローバル展開の可能性-』 （冒頭に作家の今村翔吾氏よりビデオメッセージ）
		登壇者	※特別メッセージ： 今村翔吾 （作家） 新井宏 （文藝春秋ライツビジネス局長） 三枝亮介 （株式会社 CTB 代表取締役） チャド・マレーン （お笑い芸人／映像字幕翻訳家）
		概要	文藝春秋ライツビジネス局長新井宏氏、作家伊坂幸太郎氏等の海外展開を手がける株式会社 CTB 三枝亮介氏、お笑い芸人で映像字幕翻訳家でのチャド・マレーン氏の 3 名により、日本の活字コンテンツが潜在的に有する、国際展開につながる魅力や可能性について、今国際的に求められているものは何か、日本の作家や翻訳者はグローバルにどのような活躍が期待されるのか等にも触れながら鼎談いただきます。
	17:00-17:50	第 3 部：交流会	

※セッション内容は変更となる場合がございます。予めご了承ください。

※詳細は WEB サイト（https://www.jlpp.go.jp/bungakudays2025_s/）にて順次発表致します。

■登壇者プロフィール（15人）

（プロフィール全文はこちら→ https://www.jlpp.go.jp/bungakudays2025_s/panelist.html）

又吉直樹（お笑い芸人／作家）  ©YOSHIMOTO KOGYO.,LTD. 1980 年大阪府寝屋川市生まれ。吉本興業所属。2003 年にお笑いコンビ「ピース」を結成。2015 年に本格的な小説デビュー作『火花』で第 153 回芥川賞を受賞。同作は累計発行部数 300 万部以上のベストセラーとなる。2017 年には初の恋愛小説となる『劇場』を発表。2022 年 4 月には初めての新聞連載作『人間』に 1 万字を超える加筆を加え、文庫化。2023 年 3 月、10 年ぶりのエッセイ集となる『月と散文』を発売。他の著書に『東京百景』『第 2 図書係補佐』、共著に『蕎麦湯が来ない』（自由律俳句集）、『その本は』など。	チャド・マレーン（お笑い芸人／映像字幕翻訳家）  ©YOSHIMOTO KOGYO.,LTD. 1979 年オーストラリア・パース生まれ。ホームステイで偶来日した際に日本のお笑いにハマり、ぼんちおさむに師事。加藤貴博とお笑いコンビ「チャド・マレーン」として活動中。また、松本人志が監督した映画作品などの字幕翻訳や芸人の海外公演のサポートなど、日本のお笑い文化を世界に発信すべく奮闘している。
井戸川射子（作家）  写真 Rana Shimada ©講談社 1987 年生まれ。関西学院大学卒業。2018 年、第一詩集『する、されるユートピア』を私家版にて発行。'19 年、同詩集にて第 24 回中原中也賞を受賞。'21 年に小説集『ここはとても速い川』で第 43 回野間文芸新人賞を、'22 年に『この世の喜びよ』で第 168 回芥川龍之介賞を受賞。他の著作として、詩集に『遠景』、小説に『共に明るい』『無形』がある。	Polly Barton（日本文学翻訳家、エッセイスト）  ©Garry Loughlin イギリス在住の日英翻訳家。2012 年、第 1 回 JLPP 翻訳コンクール最優秀賞受賞。So We Look to the Sky 窪美澄『ふがいない僕は空を見た』、Spring Garden（柴崎友香『春の庭』）等を翻訳出版。Where the Wild Ladies Are（松田青子『おばちゃんたちのいるところ』）は 2021 年「世界幻想文学大賞」短編集部門、Mild Vertigo（金井美恵子『軽いめまい』）は 2023-2024 Lindsley and Masao Miyoshi 翻訳賞を受賞。2021 年、日本語についてのエッセイ Fifty Sounds をフィッツカラルド・エディションズから出版。
由尾 瞳（早稲田大学教授、文芸翻訳家）  コロンビア大学で Ph.D.を取得。2022 年から 2024 年までハーバード大学で訪問研究者。専門は日本近代文学・ジェンダー研究・翻訳研究。主に明治後期から昭和初期にかけての女性作家について、女子教育、メディア、フェミニズムの視点から研究している。現在、Making Translation Visible: Gender, Hybridity, and Border-Crossing in Modern and Contemporary Japanese Literature の共編に取り組んでいる。訳書に、今村夏子『こちらあみ子』、川上未映子『黄色い家』（共訳）、他にも樋口一葉や尾崎翠など、数多くの日本文学作品を海外文芸誌に発表。	Eduard Klopfenstein（日本文学翻訳家、チューリヒ大学日本学名誉教授）  日本文学翻訳家、チューリヒ大学日本学名誉教授。1964-66 年第一回文部省奨学生として主に京都大学に留学。1968 年ベルン大学にてドイツ文学博士号取得、1969 年よりチューリヒ大学日本学科助手、1979 年同大学日本学にて教授資格 (PD Dr.) 取得。1989-2005 年、チューリヒ大学教授。現在は同大学名誉教授。専門は日本文学で、文学作品のドイツ語訳出版に数多く携わる一方、日本の著名な文学者をスイスに招待し、講演会、朗読会、連詩の会等を多数企画・開催してきた。翻訳賞関係では野間文芸翻訳賞、日本財団翻訳賞、しずおか世界翻訳コンクールなどの審査員も含まれている。2010 年日本政府より旭日中綬章、2019 年には "Paul Scheerbart" ドイツ語翻訳を授与される。

Alexa Frank (Associate Editor, HarperVia)	Janine Beichman (日本文学研究者／翻訳家／大東文化大学名誉教授)
アイオワ大学のアイオワ・ライターズ・ワークショップおよびフルブライト・プログラム修了。arperCollinsの子会社であるHarper Via社の編集者で、翻訳文学を専門としている。これまでに編集した日本作品は、森見登美彦『四畳半神話大系』（2023年PEN翻訳賞ショートリスト選出）、宇佐美りん『推し、燃ゆ』、三浦しをん『風が強く吹いている』など。フリーランスの漫画翻訳家としても活動しており、その作品はアイズナー賞やイグナツ賞において高い評価を得ている。	日本文学研究者、翻訳家、詩人。コロンビア大学博士号。大東文化大学名誉教授。英語能『漂炎』（Drifting Fires）を制作。著書に Masaoka Shiki: His Life and Works、Embracing the Firebird: Yosano Akiko and the Rebirth of the Female Voice in Modern Japanese Poetry などがあり、大岡信の詩を英訳した Beneath the Sleepless Tossing of the Planets: Selected Poems が 2019 年日米友好基金日本文学翻訳賞を受賞。
Peter MacMillan (翻訳家／詩人) アイルランド生まれ。アイルランド国立大学卒業後渡米し博士号を取得。現在は東京大学非常勤講師、相模女子大学客員教授、武蔵野大学客員教授を務める。2023年、JICA 初の文化担当講師に就任。2008年に英訳『百人一首』を出版し、日米で翻訳賞を受賞。また日本での著書に、『英語で味わう万葉集』、『謎とき百人一首 和歌から見える日本文化のふしぎ』など多数。NHK WORLD「Magical Japanese」、KBS 京都「さらピン！キョウト」に出演している。2024年、NHK「100分de名著」で百人一首の指南役を務める。同年、外務大臣表彰受賞。また秋の叙勲にて旭日小綬章受章。	Meredith McKinney (日本文学翻訳家) オーストラリア国立大学で日本古典文学の博士号を取得。現在、オーストラリア国立大学名誉准教授。約20年間日本で暮らした後、オーストラリアに戻り、現在はニュー・サウス・ウェールズ州の小さな田舎町の近くに住んでいる。これまでに20冊以上の翻訳書を出版。その中には枕草子、方丈記、徒然草などの古典、夏目漱石の『こころ』と『草枕』、現代作家の田辺聖子、古井由吉や島田雅彦の作品などがある。古井由吉の Ravine and Other Stories（『谷』）で日米友好基金日本文学翻訳賞を受賞。2025年に A Tale Unasked（『とはずがたり』）がペンギン・クラシックより出版予定。
森山 恵 (詩人／翻訳家) 東京生まれ。聖心女子大学大学院文学研究科英文学修了。詩集に『夢の手ざわり』『エフェメール』（ふらんす堂）『みどりの領分』『岬ミサ曲』（思潮社）。訳書に『源氏物語 A・ウェイリー版』（全4巻、左右社、穂矢まりえ共訳）。同書にて2020年ドナルド・キーン特別賞。2021年ヴァージニア・ウルフ『波』（新訳版）を早川書房より上梓。最新刊に穂矢との共著『レディ・ムラサキのティーパーティー らせん訳『源氏物語』』（講談社）。NHKTV「100分de名著 ウェイリー版・源氏物語」にゲスト講師として出演。新聞、文芸誌に評論、エッセイ、書評、詩などを発表のほか、各地の文学館、図書館、大学で講演、講義を行う。	

新井宏（文藝春秋ライツビジネス局長）	三枝亮介（株式会社 CTB 代表取締役）
 1968 年生まれ。早稲田大学卒業。株式会社文藝春秋入社。文藝編集者として多くの作家を担当。その後、著作権管理部門に異動。海外への版權輸出業務を担当するようになる。これまでに、村田沙耶香「コンビニ人間」、横山秀夫「64」など多くの作品の英訳出版に携わった。昨年は、望月麻衣「満月珈琲店の星詠み」が、「Publishers Weekly」の、「Best Books2024」（SF/Fantasy/Horror ジャンル）に選出された。現在、文藝春秋ライツビジネス局長。また日本書籍出版協会、日本雑誌協会の著作権委員を務めている。	 編集者、映画プロデューサー。作家エージェンシー株式会社 CTB 代表取締役。2001 年株式会社講談社入社、「週刊少年マガジン」編集部、文芸図書第一出版部、「群像」編集部に在籍。2012 年株式会社コルクを設立、代表取締役副社長に就任。2017 年株式会社 CTB を設立。2022 年、ブラッド・ピット主演『プレット・トレイン』のエグゼクティブ・プロデューサーを務める。現在は、阿部和重、伊坂幸太郎、田中慎弥、蓮實重彦、深水黎一郎などのエージェント／編集者であり、ロバート秋山「クリエイターズ・ファイル」のプロデュースも行う。

※今村翔吾氏のプロフィールは後日、上記サイトに掲載予定。

【ご参考】出版社向けセミナー（第3回）も2月25日（火）に開催します。 ※ 第1回・第2回は実施済

■実施概要

日 時：第3回 2025年2月25日（火）13:30-16:30 ※言語：英語（逐次通訳あり）

場 所：第3回：日本教育会館 会議室 [\[アクセス\]](#)（神保町駅から徒歩3分）

講 師：Alexa Frank 氏（Associate Editor, HarperVia）

概 要：日本文学のブームを読み解く：アメリカの編集者の視点から“日本文学の台頭”と“うまく翻訳出版する方法”を解説。NAVIGATING THE JAPANESE LITERATURE BOOM: A US EDITOR'S PERSPECTIVE ON THE RISE OF JAPANESE LITERATURE IN TRANSLATION AND HOW TO PUBLISH BOOKS WELL?

講義内容：・アメリカ市場における日本文学の状況について

・アメリカ市場の現状と今後のトレンド

・アメリカの出版社と仕事をする際に最適な手法とは

・アメリカの出版業界についての Q&A

※終了後にはネットワーキングタイムを設ける予定です。

※出版社向けセミナーについては、既に定員に達しておりますので、キャンセル待ち申込については、下記事務局までお問い合わせください。

現代日本文学翻訳・普及事業（J L P P）事務局 / mail : jlpp_office@jlpp.go.jp

<担当>文化庁CBX事業推進室

室長 寺本 恒昌

室長補佐 荻原 知也

tel : 03-6734-2872（直通）

mail : cbx-pj@mext.go.jp